

2005 FJ1600 鈴鹿シリーズ

■5月13日 金曜日 晴れ フルコース

前回のレースの結果から、今回こそはという気持ちが物凄く強く、今までにないくらい気合が入っていました。

今回のレースはS耐の前座という事もあり、普段と違って、土曜日予選、日曜日決勝という変則的なスケジュールで行われ、この日も練習は1枠しかありませんでした。その中で車を万全な状態に持っていかなければならない中、車のセットも決まり、トップタイムも記録し、後は明日の予選でPPをとるだけという、車的にも気持ち的にもいい状態で練習を終えることが出来ました。

■5月14日 土曜日晴れ予選

この日は朝から物凄くいい天気で、コンディションもよく思え、絶対にポールを取れると自分に言い聞かせ、緊張というより、むしろ楽しみながら予選に挑みました。

前回の予選で他車に自分のスリップが使われたミスもあり、最後尾からスタートし、とりあえず単独で走る事を考えました。自分で前者との間隔を空けてアタックするのですが、すぐに他車にひっかかってしまい、思うようにクリアラップがとれません。そんな事を3回程繰り返している内に、あっという間に予選は終了。

その瞬間自分がPPを取れなかった事を感じ、自分の走りが出来る環境を作れなかった自分に対して怒りがこみ上げてきました。ピットに戻り、自分のポジションが2番だった事を知り、「自分の走りさえ出来れば」という気持ちと同時に、「これがいろんな面での自分の実力だな」と感じました。しかし、この事をいくら悔やんでも予選順位は入れ替わるわけもなく、「次のレースに繋げるしかない」と思い、今は明日のレースだけに集中しようと気持ちを入れ替えて、決勝に挑みました。

■5月15日 日曜日 晴れ 決勝

この日も凄くいい天気で、昨日の予選から気持ちを入れ替えて、勝つ事を考えて挑みました。決勝前に館監督や先輩から、「速さは十分あるんだから、どんな事があっても落ち着いていけよ」とアドバイスをもらい、フォーメーションスタート。

しっかりタイヤを暖めて、シグナルレッド、消灯、スタート。

いつもは、1速でスタートするのですが、今回は2速スタートで、半クラッチを長く使すぎた事により、クラッチを滑らせてしまい、車は全然前に進みません。その結果1コーナーに進入する時には、6番手までポジションを落としてしまいました。その時にはすでに、スタート前に受けたアドバイスはどっかに行ってしまう、「早くポジションを挽回しなければ！」という焦りでいっぱいでした。スタート直後の2コーナーで、1台のインをさし、そのままS字1つ目でアウトからかぶせ、一気に4番手に。

その後自分の得意なダンロップからスピードを乗せ、テグナ1個目でインをさし、3番手に浮上。そこで一度落ち着けばよかったのですが、「このままトップまで」という気持ちがあり、自分の得意な130Rでテールにピッタリ張り付き、シケインの入り口でアウト側に車を振りました。この時、スピードが速すぎ、1位の人のテールに接触しそうになり、ステアリングを切る事が許されず、そのまま真っ直ぐスピン。

コースには16位で復帰出来たものの、トップ争いの2台とは大きく離されてしまいました。しかし、ここで諦めずに1台でも多く抜き、シリーズの事を考え、ポイントを稼ごうと追い上げを開始しました。

そこからはファステストラップを記録しながら1台ずつ確実にパスしていき、3位争いの集団に追い付いて6番手までポジションを上げました。そして、3台のペースを見て、「この3台はすぐパス出来るな」と思った7周目、S耐の前座で路面にいつもと違うタイヤラバーが乗っていた事で滑りやすくなっていた事もあり、コースアウトしてクラッシュしてしまいました。

この事は前日の予選から解っていたのですが、冷静さを失い、ただがむしゃらに走っていただけの自分では、この事を考える余裕もなく、完全に自分のミスでした。どうにかコースに復帰して、再び追い上げたのですが、最終的には10位で、チェッカーを受けました。

今回のレースを終え、一番感じた事は、自分の精神面での弱さでした。今回のレースでも、落ち着きさえすればスタートをミスした後でも、絶対に優勝出来たと思うし、何回でもチャンスはあったと思います。本当に自分が情けなかったです。でも逆に今回の事で、これからの課題も見えてきて、またひとつ大きな勉強になりました。

この経験を生かすも殺すも自分次第なので、同じミスを繰り返さないで次こそ表彰台の真ん中に立ちます。

今回は皆さんの期待に応えられる結果ではなかったのですが、自分も絶対に成長していきますので、これからもご指導、応援よろしくお願いします。